

大館市教育委員会会議録

日 時 令和6年3月21日（木）
午後3時30分

場 所 大館市役所本庁舎4階
会議室401，402

大 館 市 教 育 委 員 会

大館市教育委員会会議録

1	開会の日時	日 時	令和6年3月21日（木）		午後3時30分
	及 び 場 所	場 所	大館市役所本庁舎4階		会議室401，402
2 出席委員の氏名					
教育長職務代理者		山 田 和 人		委 員	工 藤 啓 子
委 員		根 田 穂美子		委 員	小笠原 正 卓
3 欠席委員の氏名					
4 委員以外の出席者職氏名		(なし)			
5 出席した職員の職氏名					
教 育 長		高 橋 善 之		教育総務課長補佐	宮 崎 史 人
教 育 次 長		成 田 浩 司		学校教育課長補佐	工 藤 貴 胤
教 育 監		長 岐 公 二		学校教育課長補佐	北 林 香 子
教 育 総 務 課 長		小松原 功 秀		教育研究所副主幹	山 本 多鶴子
学 校 教 育 課 長		鈴 木 明		生涯学習課長補佐	羽 沢 秀 則
教 育 研 究 所 長		米 澤 貴 子		中 央 公 民 館 長	外 館 志
生 涯 学 習 課 長		糸 屋 みさえ		歴史文化課長補佐	篠 村 朋 子
歴 史 文 化 課 長		小 松 工		教育総務課総務係長	柳 谷 真 希
歴 史 文 化 主 幹		関 智 仁			
6 会議録署名委員 教育長・根田委員					
7 会 議 書 記 教育総務課 総務係長 柳谷 真希					
8 教育長報告					
(1)		「おひなさま展」と「おひなさま茶会」の開催について			
9 議 事					
議案第7号		第8次大館市社会教育中期計画について			
議案第8号		大館市北地区コミュニティセンターに関する条例施行規則の一部を改正する規則案			
議案第9号		大館市地区公民館長及び分館長の任命について			
議案第10号		大館市地区公民館運営審議会委員の委嘱について			
議案第11号		大館市文化財保護審議会委員の任命について			
議案第12号		大館市の教育 2024年度版の重点施策について			
議案第13号		課長等の任免について（秘密会）			
10 その他					
次回 4月24日（水）長木公民館 第1，2研修室					

教育長が教育委員会に報告する事項

令和6年3月21日

担当課（歴史文化課）

報 告 事 項	報 告 内 容
「おひなさま展」と「おひなさま茶会」の開催について	2月から3月にかけて、大館郷土博物館と鳥潟会館で、「おひなさま展」と「おひなさま茶会」を開催しました。 大館郷土博物館ではひな人形や押絵びな、道具類など1,144点を、また鳥潟会館ではひな人形やつるしびな、道具類など749点をそれぞれ展示し、多くの方々に鑑賞していただきました。 また「桃の節句」の3月3日は、博物館で「おひなさま茶会」を催し、会場内では裏千家秋田北支部の会員から抹茶と和菓子が振る舞われ、琴サークルによる演奏も披露されました。 訪れた方々は、おひなさまを眺めながら、琴の優雅な音色に耳を傾け、抹茶の味を楽しみ、一足早い春の訪れを感じていました。 ○大館郷土博物館 期間 2月9日(金)～3月20日(水) 来館者数 943人(3/10現在) ○鳥潟会館 期間 2月23日(金)～3月3日(日) 来館者数 770人 ○おひなさま茶会 開催日 3月3日(日) 来館者数 182人  (博物館 大ひな段)  (琴の演奏の様子)  (鳥潟会館 ひな段)  (鳥潟会館 ひな段)

議 事 の 経 過	
	開会 午後 3 時 3 0 分
教育長	ただ今より教育委員会会議を始めます。 会議録署名委員については、私と根田委員にお願いします。 会議録について、いかがだったでしょうか。 (「異議なし」の声あり) それでは、承認とさせていただきます。 では、4の教育長の報告事項についてお願いします。
歴史文化課長	(「(1)」「おひなさま展」と「おひなさま茶会」の開催について」を資料により報告)
教育長	ご意見、ご質問はございませんか。
委員	私も3月3日のお茶会に参加させていただいて、お点前を拝見してまいりました。 おひなさまは例年通り大変華やかで、おひなさまを見るのも楽しみでしたが、今回はお茶会に参加させていただいて、高校生がお点前をしてくださったのです。 その方のお話を聞いたら、もう何年か前から伝統文化の継承のために、裏千家の伊藤先生がご指導くださった方のお弟子さんのお1人だったのです。 だからそれがまたあのような立場の中で、更にその文化歴史の継承がなされてきたものを、そういうさり気ない、博物館の中のお茶会の中にも生かされて、生徒さんが自発的にお手伝いしたいということで参加したと伺いました。 本当にありがたいことだと思って、お点前も大変美しいお姿を見させていただき、また、熱心に学んだその心が伝わってくるような、そういう雰囲気を感じながら、心地よく過ごさせていただきましたことに本当に感謝申し上げます。 例年、おひなさまも同じようなものなのですが、展示の仕方により、少しずつ変えながら工夫して展示なさっているの、見る方も同じものでもまた違う目線で楽しむことができるということ、大館市民の皆さまがたから寄附いただいているおひなさまもたくさん展示されていて、たくさんの方々がそれを楽しみながら見ていることを大変うれしく思いました。 博物館の方でも大変だったと思いますが、本当にありがとうございます。
教育長	ただ見るだけではなく、そういうふうなものと組み合わせながら深めていくというのが大事だと思います。

委員	その中のお点前をしていた女子高生だったのですが、お話を聞いたら、不登校だった時期もあったようで、少しそのお子さんと雑談をしたら、高校に進むときに大変悩んだけど、この茶道を学ぶ中でいろいろ考えて、秋田市の学校に通っているというお子さんでした。だからそのお話も聞いて、とても明るくて、日々学ぶことに意欲を感じられるような話し方で、しかも積極的に博物館にお手伝いに来たということを伺って、ちょっと感動いたしました。そういういい機会をいただきました。
教育長	そういうふうな形で、いろいろな生涯学習の講座にもお手伝いいただいていますし、ただお茶だけじゃなくて、そういうふうなのも若い子たちを支えてくれていたり、育ててくださっているということで大変ありがたいなと思っています。 ほかはございませんか。 ないようですので、議事に入ります。(5) までお願いします。
各課長	(「議案第7号 第8次大館市社会教育中期計画について」 「議案第8号、大館市北地区コミュニティセンターに関する条例施行規則の一部を改正する規則案」 「議案第9号、大館市地区公民館長および分館長の任命について」 「議案第10号、大館市地区公民館運営審議委員の委嘱について」 「議案第11号、大館市文化財保護審議会委員の任命について」を資料により説明)
教育長	ご意見、ご質問はございませんか。
委員	第8次大館市社会教育中期計画についてです。 第7次中期計画と照らし合わせてみましたが、非常にシンプルで、心に伝わりやすい言葉で書かれていて、例えば「こども・おとなが共に学び合うひとづくり」、この言葉が非常に身近に感じていいと思いました。 前回よりもまた1つ踏み込んでシンプルに、前回は「町や暮らしの中で市民が活躍し、時代とともに育む教育文化都市」と、具体的に見えるけど少し抽象的な言葉が並んでいたように思っていました。 今回のこの言葉を見て、前の言葉と比べてシンプルだけど、非常にわかりやすく身近に感じて、いいなと思いました。 それから、「学びがつながるひとづくり」、「笑顔がつながる絆づくり」、未来につながる地域づくり」というこの言葉も非常にシンプルだけどわかりやすく、大人でも子どもでも誰にでも伝わりやすい言葉で、こういう風に作ってくださったこと、読みながら、いい言葉、シンプルだけどとてもいい言葉だと思って拝見していたところでした。
生涯学習課長	委員から、表紙に当たる部分についてお褒めいただいて、ありがとうございます。

	います。 実は、もう少し別の言葉を準備していたのですが、社会教育委員の方から、例えば「元気な人」みたいな形になると言葉が強いなというのがありまして、もう少し柔らかく表現できないかというところでご意見いただいたところ、社会教育委員の方からご提案いただいたものでした。 「学び合うひとづくり」というのがありますので、学び合うというところには「つながる」という言葉がキーワードになるのかなというところで、この3つのところに「つながる」言葉を加えて作っていただきました。
委員	聞いているうちに何となくイメージが上がってきたように思いますが、この計画案は、上が3点で下が4点ですよね。「ひとづくり」「絆づくり」「地域づくり」と3つあって、その下が4つですよね。この3つと4つでどうやって理解すればいいのかよくわからなかったですが、これは結局、ひとがつながって絆になって、絆が強くなって地域になって、地域が良くなってまたひとが良くなっていくという、ある意味らせん状に、トルネード的にどんどん地域が良くなるのだというイメージなのですね。 しかも、それを支えるのはこの4つの施策だというふうに理解すれば、非常に素晴らしいものになっているし、今は理解できています。この辺の説明をしっかりとやっていただけると、さらに理解が深まると思いますので、ぜひそのような形で、今後何かの機会があればご説明いただけるといいのかなと思いました。
生涯学習課長	ご指摘ありがとうございます。おっしゃる通りです。別の機会に説明するときには、本日いただいたご意見を参考にして、よりよい説明にしていきたいと思います。ありがとうございます。
委員	大館学び大学が始まってからいくつか参加させていただいて、最近では駅舎を活用した「人生100年時代を元気に生きる」にも参加させていただいたのですが、今の子どもたちは、もう50～60パーセントの子どもたちが100歳まで生きるという話を聞いて、本当に人生100年時代というのを意識していかなければいけないなというのを改めて感じたところですが、それについて、高齢者だけでなく、子どもたちにもそういう意識が必要なのだなというのを改めて感じてきたところです。 これからは、生涯学習について、子どもも大人も大事ななということで、この頭に書かれている「こども・おとなが共に学び合う」というところが生かされてくれればいいのかと思います。 反対に言うと、学校教育の中でも100年生きるといった視点からの教育が必要なのかなと改めて思ったところであります。 健康教育を始め、キャリア教育、学び直し等々含めていろいろ抱えられている事業を、ますます充実を図っていただければなと思っているところです。
生涯学習課長	ありがとうございます。施策の展開にしていきたいと思います。公民館事

	業の中でも子ども対象と大人対象というのが主だったものになっているのですが、その中をつなげていく事業展開というのにも必要かなと考えておりますので、つなげていきたいと思います。
委員	「ふるさとに誇りをもち共に学び合いができるひと」、これは「まち」から「ひと」に替わったのですよね。これはやはり、皆さんで話し合っていることですか。
生涯学習課長	実は、7次計画のときにはまちや暮らしの中でというところで「目指すまちの姿」としていました。今回、基本の総合計画の方向性は継承しているのですが、今回示されていたのが、「ひとを作る」というところだったので、それを今回の8次のところに入れたところです。
委員	私もこの「ひと」っていいなと思って、これを拝見しておりましたので、わかりました。
委員	7ページの「生活指標一覧」の中で、「社会人の学び直しの受講者数」というのは、これがいわゆる学び大学ではないのですか。
生涯学習課長	ここの中には、さまざまなものを入れていきたいと考えています。学び大学だけではなくて、例えば、No.58に「生涯学習講座受講者数」というのがありますが、その他に学び直しというと歴史文化課の講座があったりいろいろなものが行われているかと思しますので、ご報告いただきながらそのようなものも受講者の中に盛り込んでいければいいなと考えています。 実際、学び大学事業の中で今年度については講座の数を増やしたこともありまして、800人を超えました。まずそこからもう少しずつ積み上げないといけないと思ったので、ちょっと前向きな数字を上げさせていただいたところです。
委員	No.62の「社会教育講座」について、社会教育って具体的に何を学ぶのでしょうか。
生涯学習課長	社会教育というのは、学校の教育課程などで行われている活動を抜いて青少年とか成人に対して行われる組織的な教育活動というものだそうです。 現在のところは、そのような講座に参加する者は生涯学習になりますし、例えば読書だとか自分でどこかの習い事に行くというのは生涯学習で、生涯学習の方が土台が広いというのがありますが、そうではなくて、これから必要な人材について、これから必要となるような、学んで欲しいものを公民館が主催して、講座展開をして人を募集する形になるのかなと。これから公民館事業の中で施策を考えて、具体的に示すことになるかと思います。

中央公民館長	これを構築したときの資料を今日持ってきていないので、次回改めてもう1度説明させていただきます。よろしくお願いします。
委員	No. 57の「障がい者の生涯学習講座数」について、障害者というと、たとえば身体の不自由な方もいらっしゃるでしょうし、耳が遠い方、いろいろな方がいらっしゃると思うのですが、その講座を開設するにあたって、なかなか難しいところがあるのではないかと思います。どのようなものでしょうか。
生涯学習課長	令和3年度から文部科学省の事業の採択を受けて、障がい者の生涯学習事業をやっています。 その中で最初に計画をしたときに、障害の部分については特に限定をしていなくて、障害のある方どなたでもというところだったので、今の段階では特にこの障害の方のみ限定するものは考えておりません。 ただ、これまで3年間事業としてやってきましたところで参加して下さる方は、ほぼ知的障害がある方でした。 例えば、聴覚や視覚のある方がご参加をされるときには、福祉関係の方にまずお願いするなりして、例えば手話ができる方を呼ぶとかそのようなことができるのではないかなと考えております。以前、手が少し不自由な方がいらしゃったときには、できるところを私どもの方でサポートしながら体験していただいたということもありました。 そのときは料理の講座だったのですが、試食になったときに障害のある方から、自分はこれを持ってないから手伝ってと、そういったお声をかけていただくこともできたので、そのような方々についても、一緒に活動する方にとっても、交流することが学びにつながる部分や分かる部分になりますので、その都度、障害のある方の区分に従って対応できる体制を作っていきたいと考えております。
委員	大変なことだと思うのですが、いろいろな障害の方も一緒に支え合うような、互いに認め合うような形の集まり方の講座などを開けることができれば、これまたいいなという思いもあります。 大変かもしれませんが、そのところを考えていただいて、実行していただければと思います。よろしくお願いいたします。
教育長	よろしいでしょうか。 それでは、(6)をお願いします。
各課長	(「議案第12号大館市の教育2024年度版の重点施策について」を資料により説明)
教育長	以上3点について変更を予定しておりますが、これらについて、ご質疑ありましたらお願いします。

委員	学校教育課の３番のところの「織りなす」について、実はとても引っかかっています。 というのは、並べてみたときにこの「織りなす」だけが非常に文学的というか、そういう表現なので。まず関わり合って連携してということだと思うのですが、今の説明を聞いて、縦系、横系の説明でわかりましたが、説明しなければわからない文言はどうなのかなと思ったところです。イメージとしては湧くのですが、具体的な言葉でいいのでないかなとちょっと思いました。
委員	「織りなす」という言葉は、もう数年前から一般的な言葉になって、私もよくこの言葉を聞いてもうイメージとして湧くのですが、ただ皆さんが湧くかどうかわかりません。ただ、今は「織りなす」という言葉が割とたくさん使われている、一般的にもよく聞く言葉になったと思うのです。 教育監が話されたときには、私はあまり違和感はなく、なるほどいい言葉をちょっと並べられたなと思ったのですが、委員が話されたとすれば、皆さんはどうなのかということは、ちょっと分からないですね。個人的には問題ないような気がしましたが、どうでしょうね。
教育監	一応参考までに。 今日お示したこの重点政策についてという資料がそのまま公開されることはなくて、これに付随した資料が評価項目として説明されるという、そういう流れになります。
委員	そうであれば、特段問題ないような気がしますね。
教育監	せっかくご意見いただいたので、言われると確かに文学的かなと思いますので、もう１回検討して個別に皆さんにご相談して、その上で決定したいと思いますが、それでよろしいでしょうか。
教育長	表現上の問題はそれぞれあるかもしれませんが、これは何のためのものかといういわゆる基本目標や点検評価のためのものですので、いろいろな表現になったとしてもその点検評価の際にその意図、趣旨などをお伝えした上で評価していただければいいということになります。そのような観点から、いま一度点検してみて、そのままでもいいし、もし変更になったら後ほど出していただければと思います。 よろしいでしょうか。 それでは、大館市の教育２０２４年度版の５番の重点政策については、仮承認という形で進めさせていただきます。 それでは、「その他」に入ります。
教育監	(「教育の未来を考えるシンポジウム」について、口頭報告)

教育長	このシンポジウムについて、教育委員の皆さまから感想等いただければと思います。
委員	本当にありがたい機会をいただいたという言葉にくぐられるような、いい時間だったと思います。娘が感動して帰ってきました、普段中学生として暮らしていて、あのような大学生に触れる機会が全くないので、その刺激がすごかったのと、彼女にしてみれば、慶應大学の学生なんて雲の上以上の人たちですが、ワークショップで一緒になった学生さんがすごく優しく、いろいろフォローしてもらいながら、グループワークで小学5年生の子と一緒にだったのでその子の意見さえも取り入れて、その机の上の付せんになるというそういう体験をして、すごく感動していました。別に雲の上の人でも何でもなくて、ただの優しいお姉さんだけどすごいというのが彼女の感想です。 この本質について最後に准教授が言っていて、これをどう仕上げていって結果につなげるかというのは、今後我々に課された使命かなと思いました。若い彼らがいろいろ課題として出してくれたことを我々世代がどうやってそれをかなえて、社会のいいことにつなげていくかというのが、大事なところかなと思いました。何より、大沢香晴（かおる）さんがずっと接していた先輩だったので、自分もあんなにはしないけど何かいい目標ができたというような表現もしてあったので、そういうところからも本当に良い体験をさせていただいたなと思います。 難しいと思うのですが、定期的にこういう機会があれば、大館の子どもたちにもすごくいい刺激になるかなと思うので、いろいろな機会が作れるように頑張りたいなと思いました。
委員	ワークショップが良かったです。 私も最初はオブザーバーのつもりだったのですが、入らせてもらって大学生の気分で意見をいろいろ交わさせていただきましたけど、その中でとてもいいことをお話ししていろいろメモしてきたのですが、中高生がこれまで受けた学校教育でよかったことは何ですかと聞かれたときにいっぱい出して、ハローワークのことはもちろん、体験活動が良かった、地域での活動が良かったという話をされていて、本当にこれまで小中学校で行われてきたいろいろな活動の意義をきちんと感じてくださっていたなと思うと本当に嬉しいなと思ったところです。 いろいろお話を聞いて改めて大事だなと思ったのが、高校生が高校になったら何もないよという話をされていて、小中高のつながりがやはり大事だなという、外に出て初めて自分のことを見つめ直したり地域の良さを知ったりということがあるので、交流は大事だけれども、外との交流がゴールではなくて、交流したことで新しい視野を得て、学びにつなげるということが大事だなということと、それから学びたいことを学べる文化や環境もやはり大事だなと改めて思いました。 今回参加した中高生には、本当にとてもいい経験になったと思うのです。もう、目をキラキラさせて大学生の話とかを聞いているのです。

委員	今回特別な機会であったのですが、外との交流というのを考えたときに、その中でも学校間の交流、今までは子どもサミットというちょっと上に立っている人同士の交流が主だったと思うのですが、本当に小規模化していくので、学校間の交流も考えていったいいのかなというのをちょっと考えさせられました。本当に勉強になりました。ありがとうございます。 本当に貴重な機会をありがとうございました。 私の入ったワークショップの中には地元の子がちょっと後から入ってきて、ほとんど議論できていなかったのです。結局、慶應大の子たちと私と秋田大の子が入った形になって、私自身がすごくいい経験になりました。 ウェルビーイングについては、8ページに「幸せで満ち足りた状態である」と紹介されているのですが、私が思ったのは、ウェルビーイングとは、今のこの慶應大の子たちもそうですが、人のことを考えられる状態にあることなのではないのかなと、他人事を自分事として考えられることがウェルビーイングなのではないかなということを気付かせていただいた瞬間でもありました。 例えば慶應の幼稚園から上がってきた子もいるし、そして韓国から来た子もいます。さらに、通信制で学んで単位を取って慶應に受かったという子もいます。それから、僕はもう慶應大学に入った頃に資産形成を始めているという子もいました。ダイバーシティ、多様性がしかもしっかりある子たちが集まって、その中で学んできたことは何かとか、これから学ぶべきことが何なのかというようなことをしっかり議論しているのですね。 その時にやはり感じたのは、議論しながら他人を尊重するということです。僕らの当時の教育というのは、いわゆる偏差値とか、自分のことだけ考えて、とにかく入れとか、行けるとこに行けみたいところで短時間で決められた量をいかにこなせるかというような教育を受けてきた。それだけではありませんがそういうものに重点を置かれた教育を受けてきたので、そのような教育からすると非常にうらやましいなと思ったところで、これがある意味、これから日本を支えていくのだらうなということを感じた次第でもありました。 本当にいい経験させていただきました。ありがとうございました。
委員	私、ワークショップはちょっと参加できなかったのですが、全体的に大館の子どもたちには非常に豊かな心が育まれている、だからこそ人のことが考えられる、豊かな心がなければ人のために何かやってあげたいという気持ちが起こるようなゆとりはないと思うのですね。大館市の子どもたちが、教育の中でそういう心が育まれてきているというのを非常に感じた時間でもありました。 慶應大学の学生さんたちからは、素晴らしい意見を聞かせていただいて、1人ひとりが真摯に1つ1つの質問にも答えてくださって、大館市のいろいろなところを回って、大館市にもいろんなところがあるのですねという感動したようなお話を何人かの方から伺いました。またぜひ来たいという方も何

教育長	人もいらっしゃいましたし、大変うれしいことを伺った時間でもありました。 一番感じたことは、最初に話したように大館市の子どもたちが心豊かに育っているということが、今回のいろいろな1人ひとりの発言の中にも感じましたし、これが大館の行く末をきちっと守ってくれるような、大館のことを考えてくれているその気持ちが育まれているのもやはり、大館型教育の成果だなということも本当に感じる時間でもありました。先生方にも皆さんにも本当にお礼申し上げたいと思います。ありがとうございました。 私自身感じたのは、委員がお話したことがそうだったなと。 子どもたちは、高校生までの素晴らしい姿は見る機会はあるのですよね。大学生というイメージが、看護福祉大学、職能短大とありますが、いわゆるもっと広い意味での大学生の姿、どうしているのかということを、本当に身近に具体的に見る機会はやはり大事なということを感じた次第です。 それから、やはり子どもたち、子どもたちと言っても小学生から大学生までと幅がある中で、1つの未来のことを語り合えるという場があるというのはすごいことだなと思います。いわゆる学校教育制度の中で決してできないところが、そのような時間がそこに設定できたというのは非常に感動しましたし、聞きながら、いろいろ教育論議しているときに多分子どもたちはこう考えているだろうと推測しながら話しているのですが、実際に子どもたちがこう考えるとこういうこと、思っているということを生の言葉で聞けたというのは、大きな勉強になりました。 あと、もう1つ感じたのは、大館の子どもたちが発するあの空気感と慶應大学の学生たちの発する空気感が、非常に親和性が高いというか違和感がないというか、それはすごく感じました。なので、これから未来が求めている人材というのは、そういうセンスを持った子どもたちなのだなということを感じて、ある意味大館ふるさとキャリア教育の未来大館市民という姿が間違いでないなということを確認できたような気がしました。 もちろん慶應大学とは言っても、SFC湘南藤沢キャンパスの子たちだから、まさにそうなのだと思います。いろいろな個性を持った子どもたちで、もちろん国籍も違う子どもたちだったし、でもそれを超越したものを持っている、考えているからこそ、大館の子どもたちと重なっていくのだなとすごく思いました。 こういう機会を、また慶應大学が対象になるかどうか分かりませんが、ぜひこれからも作っていききたいなと思っているところです。ありがとうございました。
歴史文化課長	(「県有形文化財の指定」について、口頭報告)
委員	これは、展示して皆さんに見せるとかそういうことができるのですか。

歴文化課長	浄心寺でそういう機会を作るとなれば見ることはできるかもしれませんが、今回文化財指定のための調査ということで、広げて写したものだったので、普段は一般展示はしないです。
委員	もし、市民の皆さんに見る機会を作っていただければありがたいと思うのですが、難しいですか。
歴史文化課長	だいぶ古いものなので、そんなに頻繁にほどいたり開いたりというのは、痛みますので。
生涯学習課長	(「障がい者の生涯学習推進事業 事業報告書」について)
教育総務課長	(「来月の開催日程」について)
教育長	それでは、議案第13号課長等の任免についてです。 これから先は秘密会となります。 秘密会開始 16:50 秘密会修了 17:00
教育長	これで、教育委員会会議を終了いたします。
	会議終了時刻 午後5時00分